

ちよつと頭をぶつけただけ、でも要注意！ 慢性硬膜下血腫の可能性があります

江別市幸町4
江別谷藤脳神経クリニック
院長 谷藤 典音

寒い日が続きますね。この時期のつるつる路面は、危険がいっぱいです。

特にお年寄りであれば、転倒によって大腿骨頸部（だいたいこつけないぶ）骨折や胸腰椎の圧迫骨折などに注意が必要です。その他に、脳神経外科的に忘れてはならないものに慢性硬膜下血腫があります。

頭部を強打すると、多くの人は病院を受診すると思います。そこで急性の硬膜下血腫や硬膜外血腫、脳挫傷、クモ膜下出血などが見つけられます。

しかし一方で、転んでちよつと頭を打っただけ、車庫のシャッターをくぐろうとしてちよつと頭をぶつけただけなど、たいしたことがないと自分で判断を

して、病院を受診しないという方も結構多くいらつしやいます。そのくらの軽微な外傷で

自覚症状が全くなくても、3〜4週間後、脳と脳を包んでいる硬膜の間に血液がたまっていくことがよくあります。それを慢性硬膜下血腫と呼びます。症状は頭が何となく重い、歩きづらい、どちらかの手がうまく使えない、何となく元気がない、物忘れが急に多くなったなどです。

この病気が発症する確率は年齢とともに増加します。また、アルコールによる脳萎縮がある方のほうが発症しやすいなどの関係が指摘されています。

慢性硬膜下血腫は発見が遅れると、前述の運動まひや言語障害、認知症状など以外に、ひど

くなるわけいれんや意識障害を伴うこともあるのです。

治療は、血腫の大きさにもよりますが、主に手術（局所麻酔）で頭に小さな穴を開け、血腫を洗浄しドレーンを挿入、ゆつくり流出させていきます。術前意識障害がなければ歩行可能となり、一般的には手術後1週間程度で退院が可能となります。

このように、早期に発見し、治療することで、ほとんど後遺症を残さず治すことができるのです。

万が一、頭部を打撲した場合には、当日と約1カ月後に脳神経外科を受診し、MRI（磁気共鳴画像装置）やCT（コンピュータ断層撮影装置）検査などで状態を確認しましょう。